

## 8 . 今後の課題

本計画は、基本設計にむけて基本構想で検討・設定された基本理念や基本方針に基づき、現況把握や各種調査、並びに、その分析評価を行いながら基本計画の方針を設定し、その概要を具体的に示したものである。

また、本計画内容に活かすために段階的に市民説明会等を実施して広く意見の聴取を行った。

今後、基本設計を進めるにあたっては、基本計画で示した具体的な方向が十分に継承され実現されるように特に以下の点について配慮し、検討を行う必要がある。

### 1 ) ため池や湿地等の谷戸の水環境に関する事項

本計画では、ため池や水路部における水環境調査に基づき、保全対策の方向性について検討を行った。今後実施設計に向けてより詳細な保全対策を検討するために、ため池の堤体・余水吐等の老朽化の状況や、ため池周囲の地質の状況を把握して、堤体の漏水対策の必要性の有無などを検証する。

ため池底泥の過剰堆積が懸念されるとともに、満水位で維持されている状況であるため、底泥の除去方法と底泥の処理又は活用の検討、処理に要する期間や費用面の総合的な把握を行い、ため池の水環境改善の方策を検討する。

ハンノキ林や多様な湿地環境の保全を図るため、洗掘が進む水路やため池の水環境改善および、水みちやたまりなどにより水を湿地に誘導する対策を講じる必要がある。今後、これらの具体的な対策については、モニタリングや試行検証を考慮して、検討を行う。

### 2 ) 保全管理とモニタリング調査に関する事項

本緑地の生物多様性の保全とその適正な生育生息環境の維持に配慮して、本緑地に生息する様々な動物の行動や生息環境から緑地の生息空間の解析を行い、メリハリのある保全と活用のあり方を整理する。

本緑地における生物多様性の保全に配慮した自然環境の保全を図るため、開園前からモニタリング調査を実施し、保全のための維持管理を含む初期の環境整備手法を検討する。

特に、本緑地の自然資源の保全とその有効活用にも配慮して、保全のための緊急的措置を要する事項と、保全または改善のためにモニタリング調査を行いながら中長期的に取り組む必要がある事項とが時系列的に整理された維持管理計画を検討する。

各ゾーンやエリアの環境目標毎にモニタリングの指標や評価基準を設け、具体的なモニタリング調査の方法や評価結果の分析をマニュアル化する。

### 3 ) 市民の参画と協働に関する事項

自然環境への影響の最小化に配慮し、市民の意見を取り入れながら本緑地の適正な利用や維持管理を図るため、本緑地の利用者へのモニタリングを行いながら動線や土地利用、維持管理及び運営プログラムに即した必要最小限の施設の具体的な設置場所や規模について検討する。

引き続き市民の意見を聴取しながら、本緑地の維持管理や運営に反映することにより行政と市民の協働の管理運営をめざす。また、本緑地の特性を活かした運営プログラムや運営体制等の運営計画の検討を行う。

本緑地の維持管理にあたっては行政と市民が役割を分担し、市民の自主的・主体的な管理運営を目指したボランティア活動組織の立ち上げや、指定管理者制度の導入等を含めた維持管理費の軽減にも寄与する事業計画を検討する。